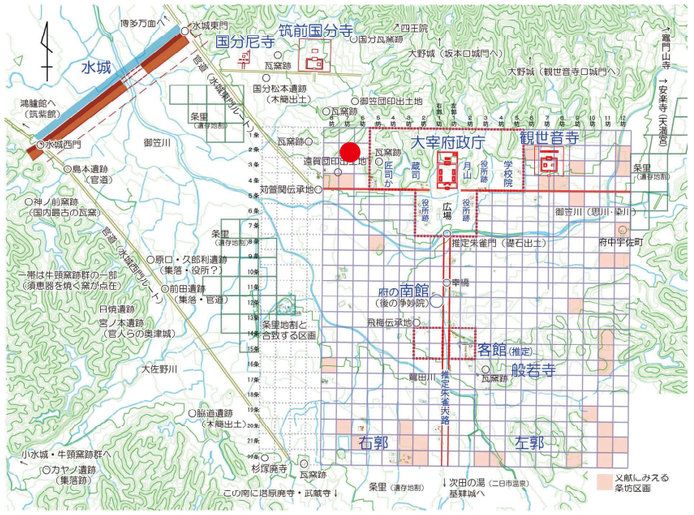
発見！古代の道路！

令和５年５月27日（土）
太宰府市教育委員会　文化財課

大宰府条坊跡第３４８次調査　現地説明会

遺跡の概要

遺跡名　大宰府条坊跡第 348 次調査
所在地　太宰府市観世音寺３丁目地内
調査期間　2023 年２月～ 2023 年５月
調査主体　太宰府市教育委員会
主な遺構　住居、溝、道路、土坑
主な遺物　須恵器、土師器、陶磁器
遺跡の時代　古墳時代後期 (6 世紀)、奈良時代、平安時代、鎌倉時代



大宰府条坊復元図「まるごと太宰府歴史展」図録に加筆
●が調査地点

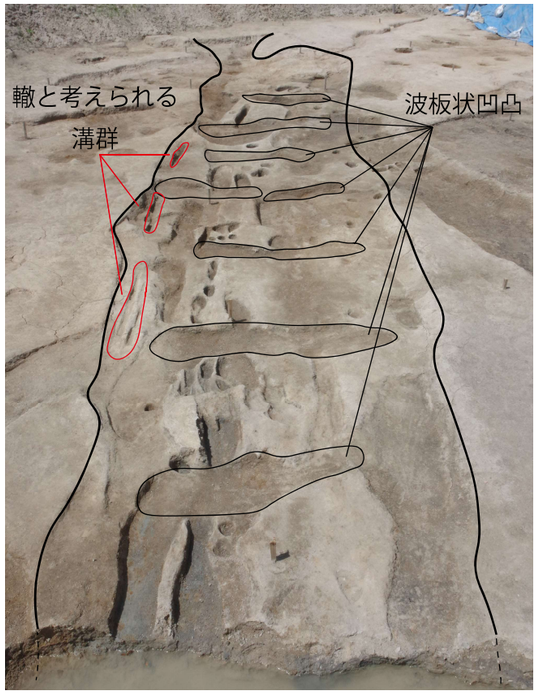
大宰府条坊とは

大宰府条坊跡は、碁盤の目のように区画された都市遺跡です。街の区画が整備されたのち、条坊の中心を通る朱雀大路が整備されました。朱雀大路を挟み東側を左郭、西側を右郭と呼び、南北方向を坊路、東西方向を条路と呼びます。一区画は約 90m四方で、区画された土地はそれぞれ「〇条〇坊」と現在の住所のように場所を表すことができます。

主要な遺構

Ｓ－60　推定６坊路

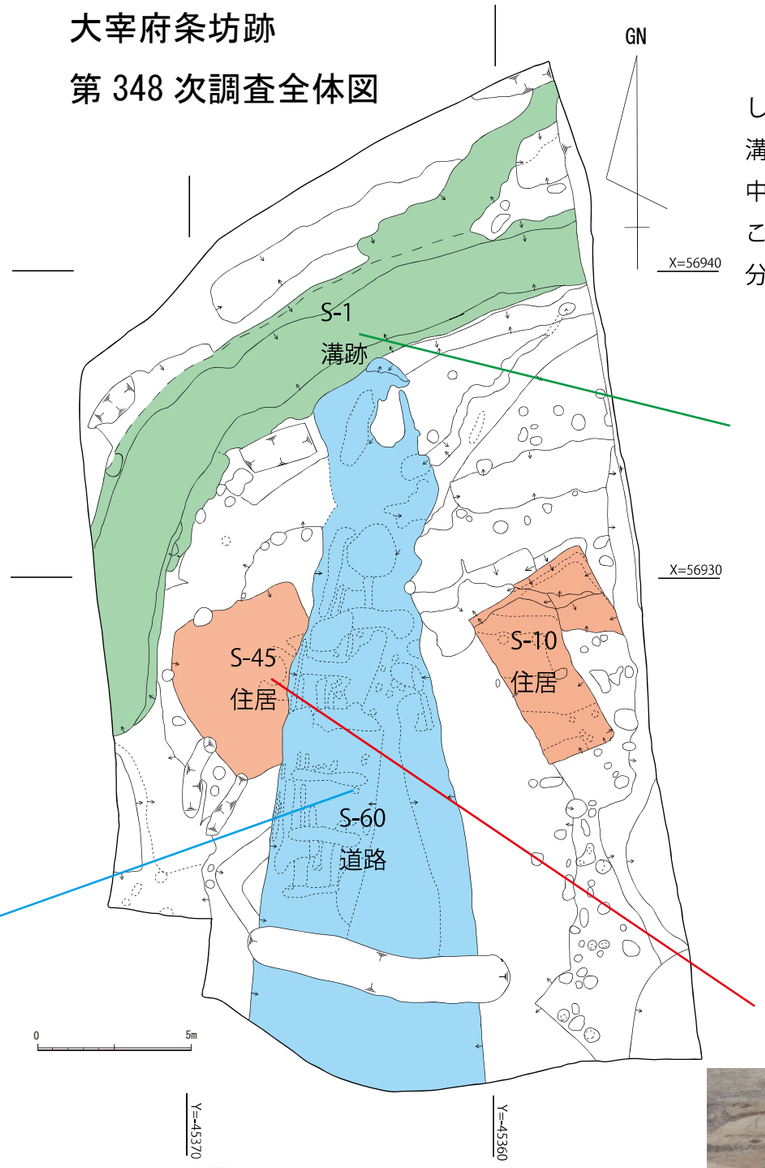
調査地中央を縦断する奈良時代から平安時代にかけての道路が見つかりました。この場所は、推定右郭 6 坊路とされる場所であることや、波板状凹凸と呼ばれる道路の基礎工事を行った痕跡や車の轍と考えられる溝群が確認されたことから、条坊の道路であることが分かりました。



S-60 道路（南から）

※波板状凹凸とは、道路の路面下で見つかる道路の基礎工事に伴う遺構と考えられています。類似した痕跡が人や牛の歩行痕跡によりつくられた場合もあります。

大宰府条坊跡
第 348 次調査全体図



Ｓ－10・45　住居

調査区中央を縦断する道路の下から、古墳時代の住居跡が見つかりました。住居は少なくとも 2 棟確認されました。出土した土器から６世紀に使用されたものであることが分かりました。

Ｓ－１　溝

調査区の北側では、中世の溝が見つかりました。古墳時代の住居を壊して流れており、溝の中から、古墳時代の土器や、鎌倉時代の中国で作られた陶磁器が出土しました。
このことから、鎌倉時代ごろに使われた溝と分かりました。

S-1　溝（南西から）

S-45　土器出土状況（南から）

S-45　古墳時代の住居（北西から）

今回の調査で分かったこと

今回の調査では、古墳時代や奈良、平安、鎌倉時代の遺構が見つかりました。
古墳時代後期には住居などの生活空間が広がっており、奈良・平安時代には条坊の道路が作られています。その後、鎌倉時代には道路が廃絶していた様子がうかがえます。また鎌倉時代には新たに溝が掘られており、土地区画もしくは水路として利用されていた可能性があります。これまでの発掘調査では、奈良・平安時代の条坊路は４条路（東西路）より北側で、ほとんど見つかっておらず、この場所に道路が通っていたことが分かったことは、古代大宰府を考えるうえで大きな成果になりました。